



令和5年2月22日(水)、令和4年度の大学院生研究発表会が開催されました。今年度は3年振りのオンサイト開催となり、博士課程学生14名、修士課程学生53名、合計67名の発表が行われました。研究所教員による厳正な審査の結果、オーラル大賞(博士課程)・ポスター大賞(修士課程)が合計5名に授与されました。どの発表においても化学研究所らしい多様な研究分野の最新の研究成果が紹介され、活気あふれる研究発表会となりました。

今回はポスター大賞受賞者の皆さんの座談会を開きました。どうして化学研究所に進学したのか?ラボの雰囲気は?先生や他の学生との交流はどんな感じ?化学研究所で過ごす学生の本音をきいてみました。



オーラル大賞	
ケミカルバイオロジー	西尾 幸祐
ポスター大賞	
精密無機合成化学	桑田 瑞輝
生体機能設計化学	川村 優貴
分子微生物科学	平島 真帆
分子微生物科学	正木 翼加

化学研究所はやれることがたくさんあって、自分のやりたい研究をしっかりと決めてから入学するといい研究生活を送れると思います!

同期にも恵まれて、尊敬できる人がいっぱいいる環境で過ごせたので良かったです!

深く突き詰めて勉強する環境は非常に整っていると思うので、よかったら化学研究所へきてください!

興味を持つものをちゃんと追いかけて行動して行けたら、自分の納得する研究ができると思います!

物質創製化学研究系
精密無機合成化学(寺西研究室)
修士課程2年
桑田 瑞輝さん

環境物質化学研究系
分子微生物科学(栗原研究室)
修士課程2年
平島 真帆さん

生体機能化学研究系
生体機能設計化学(二木研究室)
修士課程2年
川村 優貴さん

環境物質化学研究系
分子微生物科学(栗原研究室)
修士課程2年
正木 翼加さん

取材日:2023年3月8日
学年は当時のものです

ご受賞おめでとうございます! 大学院生研究発表会はいかがでしたか?

川村: 他の研究室の発表を見られたのはすごく楽しかったです。知らなかったのですが高校の同級生が化研内に2人いて、1人はゴムの弾性力の研究、もう1人はダイヤモンドを使った温度センシングの研究。内容は難しくわからなかったのですが、毛色の違う話も聞けてそういうのが楽しかった。薬学研究科でも発表があったのですが、薬を目指してというところですが、化研は化学系も生物系もありますし、特に材料系の研究は普段ない視点でおもしろかったです。

正木: 二木研とは横の研究室なんですけど、薬のことを研究してるんだとは知っていても、どんなことを研究しているか全然知らないし、色んなことをみんな研究してるんだと学ぶいい機会でした。懇親会も教授と一緒にいたら知らない教授ともちょっと喋ることができました。こういう懇親会があるからこういう機械を持っているか知れるし、次使わせてくださいとなって広がっていくんだと感じました。

化学研究所を修士課程の進学先として選ばれた理由を教えてください。

平島: 自分が興味のある研究が化学研究所にあったというのが一番です。また、学部生の時の研究室の先生が栗原研出身で交流があった

というのがあります。**桑田:** 僕も化学研究所というよりは、研究室で選びました。その中でも寺西研を選んだのは、研究で新しいことをやりたいと思っていたんですけど、ちょうど寺西研で新しい結晶構造を作ったという研究成果が京大ウェブサイトで報告されて、その研究を僕もやってみたいと思って、入ってからその研究をやらせてもらいました。



実際に化学研究所での研究活動はいかがでしたか?

平島: 先生から直接教えてもらえることがすごくよかったと思います。あとは研究室のみんなが一生懸命研究を頑張っているのはもちろん、イベントにも積極的に参加する人が多くて、楽しい時間をたくさん過ごすことが出来ました。毎年ラボ旅行に行ってたんですけど、コロナで

行けてなくて、今年伊勢に行けました。



正木: 私は平島さんと同じ研究室なのに、自分はそんなに手厚いって思ってなくて。逆に成長させるためにほどほどに突き放されているのかな。1から10というよりは、3、4くらいのサポートで、後は自分でできるように。今後自分が研究者としてやっていく上で大事なこと、考えたり探したりする力をけこう養えたなと思います。

桑田: 研究室は精密無機合成化学っていう名前なんですけど、無機をやっているだけではなくて、実験室も無機部屋、有機部屋とあって、スタッフさんもそれぞれバックグラウンドの違う人がいて。私は無機の研究なんですけど、有機ではこういう合成方法があるんだけどこれを応用できないかなとか、全然知らなかったことをゼミで教えてもらって、それを利用してちょっと無機にも取り入れてみたり。メンバーはいろんなと

ころから来られているので、人も潤っているなど感じます。

川村: 今出た話で言うと、資金が潤沢というのは研究室に来て特に感じたことで、前の大学だったら他の研究室と出し合って買った顕微鏡とかを、二木研だったら二木研で買って、すごいなあと感じて。だから、ここだとスムーズに予約できたり、それでも足りない設備があったら他の研究室に借りたりもできました。あと、栗原研とは化研の懇親会で仲良くなって、一緒に宇治川の河原で花火をしたり、研究だけでなく何か切り替えもしっかりうまくやるところが、結果的に研究の結果につながっていったりするのかな。

ご卒業後の進路や予定を教えてください。

桑田: 卒業後の進路は、繊維系の会社に就職する予定です。繊維の勉強はほとんどやったことがなくて、新しいことにチャレンジしたいと思って、繊維系の企業を選びました。入社後は、今までこの6年間で無機化学の勉強してきたので、無機化学のことをちょっと取り入れて、繊維の高分子とかを融合したような今までにないような繊維だったり、素材だったりを作るのに挑戦したいと思っています。

正木: 食品関連企業に研究職で就職します。この

会社自体も農芸化学会で私がやっているDHAとかEPAの研究を発表されていて、そこですごく興味を持ちました。会社でも博士をとりたい人がいたらサポートしてくれるところも自分の中ではけっこう大事です。やっぱり博士を持っている方が研究テーマを任せてもらえたり、海外派遣されたときも博士を持ってないと研究者として認められないこともあると聞いたので、今後博士をとったほうが研究者としてはやりたいことができるのかなと悩んだこともありました。栗原先生にも相談したんですが、博士をとりたくて連絡してくれたら、もし今修士でやってた研究と似たようなところがあつたら似たような形で論文文化して博士をとることもできるから、まずは自分のしたいことをしてみたらと言われて、それで就職してから博士をとるのもアリなのかなと選択肢として思いました。



川村: 食品と製薬を扱っている企業の製薬部門のほうに採用していただいたんですけど、ホールディングスとして食品と製薬に力を入れているし、融合分野にも力を入れているところに惹かれて志望しました。博士に進むとその製薬という狭い分野でもそこを深く突き詰められるっていうのは魅力だとは思いますが、自分は視野を広げたいという風になったので、そちらを選びました。



平島: 卒業後の進路は研究を支える分析計測機器などの精密機器メーカーで、技術職として働きます。研究生活では勉強以外にもスケジュール管理や、資料作成能力をつけることが出来たので、研究以外でも身につけた力を活かして頑張りたいと思っています。